

# 遊彩庵

遊彩庵は、遊びとお茶会の一期一会の接点である。

茶室の空間は子どもたちが彩った光で溢れている。

遊彩庵はとても楽しい茶室である。

子どもたちが遊び、その気配を壁を通して感じ、水盤に絵の具を垂らすと茶室に彩りが生まれる。



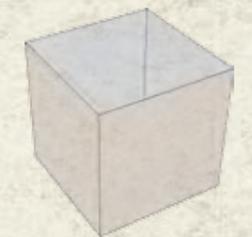
## ①.断片化

茶室そのものが語る仮設性や偶然性という特徴から“茶室の新しい体系”を考える。茶室の原型を断片化し、“伸ばしたり繋げたり”して形にしていく。



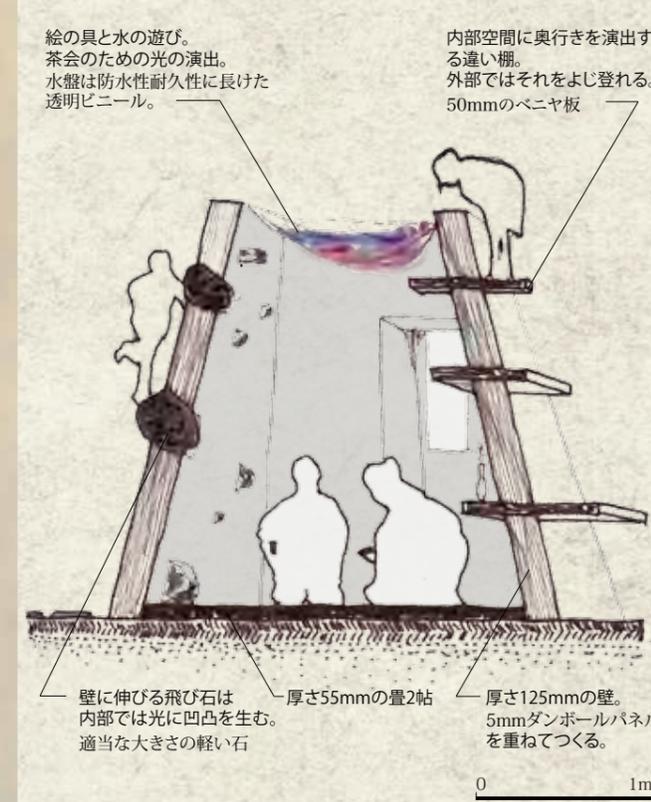
## ②.壁の両面性

内外を隔てるだけでなく、茶室の内側と外側で“異なる使われ方”ができる両面性を持った壁を作る。



## ③.空間構成

内部は静的な空間であり、外部は子どもの“遊び”を誘発する仕掛けがある。天井の水盤から、彩られた色鮮やかな光が差し、“一期一会”の茶会を演出する。交流の接点となる茶室。



違い棚  
外部では段をつくり子どもたちはそれをのぼる。

床の間の突出  
外部に入り隅を生むことで子どもたちが溜まる。

飛び石  
飛び石によって上に誘う

南面あかりとりの窓  
窓台をつかって上へと登れる。

水盤  
子どもたちに彩られた水盤を通してあつめられ彩られた光が内部におちる。内部と外部の唯一の結節点

絵の具と水の遊び。茶会のための光の演出。水盤は防水性耐久性に長けた透明ビニール。

内部空間に奥行きを演出する違い棚。外部ではそれをよじ登れる。50mmのベニヤ板

壁に伸びる飛び石は内部では光に凹凸を生む。適当な大きさの軽い石

厚さ55mmの畳2帖

厚さ125mmの壁。5mmダンボールパネルを重ねてつくる。